

おわりに

平成23年4月28日、文部科学省より「教育の情報化ビジョン」が公表されました。平成22年10月発表の「教育の情報化に関する手引」とともに、私たちが情報教育を推進していくための柱となるものです。「教育の情報化ビジョン」では、今世紀が「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、知識基盤社会の時代」であり、21世紀を生きる子どもたちに求められる力として、「競争と技術革新が絶え間なく起こる知識基盤社会においては、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく新しい知や価値を創造する能力」が指摘されています。また、「社会構造のグローバル化により、アイデアなどの知識そのものや人材をめぐる国際競争が加速するとともに、異なる文化・文明との共存や国際協力の必要性が増大」するとも明記されています。すなわち、これまでも言われてきました「生きる力」を踏襲しつつ、さらに情報活用能力を育むことは、これからを生きる子どもたちにとって必要不可欠の力だと言えるでしょう。

小学校では本年度より、中学校においても来年度より学習指導要領の完全実施が行われます。情報教育及び教科指導における ICT 活用についてより一層の充実が図られることとなります。「教育の情報化」は、児童生徒の ICT 活用を推進し情報活用能力を育むだけでなく、教員による ICT 活用により一層進展していくことと思われます。

このような中、「フューチャースクール推進事業」による全国10校の小学校における ICT を使った授業に関する実証研究の成果と課題が「New Education Expo 2011」（平成23年6月4日）において発表されました。本事業では、「電子黒板や1人1台のタブレット PC、校内 LAN などの ICT 環境を構築した上で授業を行い、技術的課題を抽出・分析する」ものです。この ICT 環境が、即、未来の教室環境になるわけではないですが、実証研究校からは、わずかな期間で教員の ICT 活用指導力が向上したとの成果も上がっています。この研究から、教員の ICT 活用指導力の向上と、児童生徒の1人1台の ICT 環境を活用したともに学び合う21世紀の教育の方向性がうかがえるのではないのでしょうか。

これら、めざましい ICT 環境の進歩とともに情報モラル教育の充実も図らなければなりません。児童生徒の携帯電話所有率も年々上昇してきている今日、学校教育においてより体系的・系統的な情報モラル教育が必要となってきました。そのためには学校だけでなく、保護者との連携が今後ますます重要となると考えられます。

このような社会情勢の中で、情報教育委員会は教職員への情報提供や指導技術向上を目指す実技研修、愛媛県下の全小中学校における情報教育環境の現状把握などを行っており、その役割は重要であると考えられます。平成20年度より東中南予で持ち回り開催しています愛媛県情報教育夏季研修会が、本年度は新しいサイクルへと入りました。国の情報教育に関する動向を講話いただくとともに、実践事例を紹介し、参加した教員への情報教育啓発に有効であったと思われます。このような活動の積み重ねが愛媛県の情報教育推進の礎となると思われます。

本年1年間の活動に対する皆様のご協力に深く感謝申し上げますとともに、今後の愛媛の情報教育推進のために、ともに取り組んでいただくことを重ねてお願い申し上げます。

平成24年3月

愛媛県教育研究協議会情報教育専門研究委員会